

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成26年9月11日

施設名	美術館	所管課	文化生活部文化推進課
-----	-----	-----	------------

1 施設の概要

指定管理者名	公益財団法人高知県文化財団	指定期間	平成21年4月1日～平成26年3月31日
施設所在地	高知市高須353番地2		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・美術品及び美術に関する資料の収集、保管及び展示 ・美術に関する専門的な調査研究 ・美術に関する講演会、講習会、研究会等の教育普及活動 ・美術品等の展示のための県民ギャラリーの提供 ・音楽、演劇等の鑑賞のためのホールの提供 ・上記のほか、美術館の設置の目的を達成するために必要な業務 		
施設内容	<p><建物> 延べ床面積:117,723㎡ 鉄骨鉄筋コンクリート造地上3階建 <土地> 19,574㎡ 駐車場 144台 <主要施設> 常設展示室、企画展示室、県民ギャラリー、講義室、創作室、ミュージアムショップ、レストラン、美術館ホール(399席)など <開館時間> 午前9時～午後5時(ホール、リハーサル室及び楽屋は午前9時～午後10時) <休館日> 12月27日～1月1日 <主な料金> 常設展 一般360円・大学生250円 ※高校生以下、高知県長寿手帳(65歳以上)、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳を所持する者と介護又は介助者1名、高知市長寿手帳を所持する者は無料 施設利用料 県民ギャラリー21,830円(1日)、企画展示室54,620円(1日) ホール1日39,170～47,210円</p>		
職員体制	常勤職員: 14人	契約職員: 15人	合計: 29人

※職員数は平成25年4月1日現在

2 収支の状況

単位:千円

		平成24年度(決算)	平成25年度(決算)	平成26年度(予算)
収入	県支出金	302,276	302,954	326,683
	事業収入	66,472	52,984	32,717
	その他	36,276	38,674	23,454
	収入計	405,024	394,612	382,854
支出	事業費	400,847	394,612	382,854
	(うち人件費)	(119,689)	(126,019)	(142,086)
	その他	4,177	0	0
	支出計	405,024	394,612	382,854
収支差額(a)-(b)		0	0	0

H24決算は公益法人会計に移行したため、H23までに管理運営経費としていたものの一部を事業費に計上している

3 利用状況

		平成24年度(実績)	平成25年度(実績)	前年度比較
年間利用者数 合計 (単位:人)	常設展	7,255人	8,527人	+ 1,272人
	企画展	61,845人	41,578人	- 20,267人
	美術館ホール	3,359人	2,089人	- 1,270人
	小計	72,459人	52,194人	- 20,265人
	貸し館	63,472人	72,655人	+ 9,183人
	貸し館(ホール)	36,583人	30,554人	- 6,029人
	県民ギャラリー	80,080人	69,655人	- 10,425人
	小計	180,135人	172,864人	- 7,271人
	合計	252,594人	225,058人	- 27,536人
	<利用実績> ・展覧会観覧者数 105,982人(常設展 8,527人 企画展等 97,455人) 開館20周年に合わせ「草間彌生展」(観覧者数29,853人)や「ボストン美術館ミレー展」(観覧者数55,877人)などの大型の展覧会を開催し、観覧者数は開館以来4回目、かつ2年連続となる10万人超となった。 ・美術館事業の総利用者数 252,929人			

4 県の要求水準に対する評価

要求水準 1

「アートセンターとしての役割の確立を目指す」	
<p>展覧会、ホール事業、教育普及事業(アウトリーチ)を3つの柱に、幅広い活動を展開する。 また、指定管理期間を通じて利用者を増やすことで、県民の文化を支える総合的なアートセンターとしての存在感を高める。 また、子どもたちが芸術に触れるという観点で事業を計画し実施する。</p>	
<p>評価項目 (1) 県民が期待する質の高い作品に触れる場を提供し、芸術や文化に対する関心を深める。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・県民の財産である館所蔵作品が多くの県民の目に触れることができるよう、展覧会での計画的な公開とデジタルデータ化などに努める。 ・世界有数のシャガールコレクションなどを生かして高知県立美術館発の企画、情報を発信する。 	
状 況 説 明	
<p>1 企画展の開催 ・多彩な内容の企画展を年間4本開催した。特に「草間彌生展」や「ミレー展」など、開館20周年という節目にふさわしい大型展を開催し、多くの方に質の高い作品に触れる機会を提供した。</p> <p>2 コレクション展の開催 ・高知ゆかりの作家の作品や、親子で楽しめる体験型の展覧会を開催した。 ・「安部泰輔展 シャガール世界」では、参加者が描いた絵をもとに小さなぬいぐるみを制作する現代美術家・安部氏を招き、約2ヵ月間会場で滞在制作してもらい好評を得た。 ・石元泰博コレクション約100点を紹介する展覧会を開催した。</p> <p>3 シャガール・コレクション展の開催 ・年間6つのテーマで作品展示を行った。 ・作品の解説シートの作成など、来場者の理解を深める取り組みを行った。</p>	
評 価	理 由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・「ミレー展」など多彩な内容の企画展を開催し、「リヒテンシュタイン展」が開催されたH24年度と同程度の観覧者数(約9万人)を記録した。 ・地元ゆかりの作家を取り上げた「塩田千春展」は質的にも高く評価できる。 ・コレクション展では、親子で楽しめる体験型の展覧会を中心に、子供たちが芸術に触れる機会を提供し、観覧者数の対前年比18%増となった。 ・二大コレクション(シャガール及び石元泰博作品)を生かした取り組みにより、その魅力を広く発信した。

評価項目

(2)ホール事業は、演劇、舞踊、音楽、映画の分野を中心に多彩な舞台芸術を県民に提供するとともに、美術館に本格的なホールが併設されているという特徴をこれまで以上に生かした事業を企画し、これらの分野で全国に誇れる存在となる。

状況説明

- ・年間9本のホール事業を実施し、多彩な舞台芸術を県民に提供した。
- ・「川口ゆい&高瀬アキ デュオシリーズ」は、欧州で絶賛されているデュオのシリーズの新作「カデンツァ-ピアノの中の都市 vol.5」を製作依頼し、高知県立美術館において日本初演を行った。
- ・また、「ノン・アルコールin血液のコンサート」は、独自企画として高知県のみで実施した。公演は、同時期に開催された「塩田千春展」の展示室で行い、塩田氏の展示作品を舞台美術に見立て、舞台芸術と美術のコラボレーションという美術館のメリットを十分に生かした取り組みとなった。
- ・日韓英 国際共同制作「ONE DAY, MAYBE いつか、きっと」は、これまでに築き上げてきた、ドリームシンクスピーク(英国)、アジアナウ(韓国)、金沢21世紀美術館との国内外ネットワークを生かし、3年間の準備期間の末実現したもので、日韓あわせて計40名の出演者を地域からオーディション選出する参加体験型の事業により、美術館全体を舞台装置に見立てた大規模な創作を行った。
- ・「あさ知らズオーケストラ「あさ知らズde怖いもの知らズ」ワークショップでは、ダンス班、音楽班、美術班各10名を募集し、本番には、あさ知らズメンバーとともに受講生全員が参加・出演した。受講生には、プロアーティストとの共同作業を十分に体験してもらえ、観客にも、大人数の演奏と同時進行する複数のパフォーマンス等、パワフルな公演を体験していただくことができた。
- ・「アーティスト・イン・レジデンス2013」では、イギリスの振付家・映像作家のダレン・ジョンストン氏が高知に約2ヶ月間滞在し、地元アーティストとの共同制作を行った。
- ・定期上映会では、各国の過去の作品を中心に、現在県内で上映される機会のない映画を年間を通じて上映した。
 春:「グラウベル・ローシャ監督特集」(ブラジル)
 夏:「手塚治虫アニメーションの夢と冒険」
 秋:「ベルトルリッチとイタリア名作集」(イタリア)
 冬:「ファスビンダー監督特集」(ドイツ)

評価

理由

A

- ・ホール事業では、演劇、舞踏、音楽、映画の分野を中心に多彩な舞台芸術を県民に提供した。
- ・展示会場を舞台とした新たな試みや、館全体を舞台装置に見立てた体験型の公演など、美術館に併設するホールという特色を最大限に生かした取り組みがなされた。
- ・地域住民と共同した国際共同製作事業等により、海外の文化機関等とのネットワークが強化され、高知県立美術館の名を国内外に大きく発信できた。

評価項目

(3) 教育普及に関しては、展覧会に関連する講演やワークショップなどの実施、アトライブラリーの充実等、館内でのプログラムを進めるほか、館外に出向いて事業を行うなど美術館から遠い地域を含めて県内全域でアートが身近に感じられる取り組みを進める。

状況説明

1 館内での取り組み

・展覧会ギャラリートークでは、担当学芸員等による作品解説を通じて、展覧会及び作品への理解を深めていただく場を提供した。また、多角的な視点でより理解を深めていただくため、作家本人や研究者等を招いた講演会やシンポジウムを開催した。

・「アール・ブリュット・ジャポネ展」では子ども対象の製作講座、「草間彌生展」では水玉ネイルアート体験、「ミレー展」では親子で楽しんでいただけるバルビゾン村模型制作といった、多彩な体験型ワークショップを開催した。

・各展覧会会期中は、観賞サポートとして手話通訳・英語通訳付きトークや、託児サービス等を実施した。

2 館外での取り組み

・出前びじゅつ講座は、要望のあった2校、2団体(教育研究会)へ学芸員を派遣した。

・出前クラシック教室は、3校でのべ15件開催し、アーティストの演奏を行うだけではなく、楽器の仕組みなどを紹介しながら、本物に触れ、音楽の楽しさを広く伝える授業を行った。

3 その他

・大学生の博物館実習や、高校大学からのインターンシップ生の受入、学校等各種団体からの施設見学等、館で学ぼうとする学生の受入や学校のプログラム等の実施に協力した。

・これまで蓄積してきた普及活動の経験を生かし、学校等との連携をより深めるため、平成26年度以降に実施する、小中学生に美術館に足を運んでもらう事業「アート・スクールバス事業(仮称)」の企画及び関係先(土佐市教育委員会等)との協議を進めた。

評価

理由

A

・開館20周年記念大型展覧会の開催にあたり、来館いただいた多数の方に楽しみながら作品の理解を深めていただけるよう、多彩な関連事業を実施した。

・出前びじゅつ講座の開催数は対前年で減少したが、学校等からの要望にはすべて対応できた。また、出前クラシック教室では、一方的な授業とならないよう子どもたちに参加してもらう場を設け、音楽の楽しさを広く伝えることができた。

・新たに「アートスクールバス」事業を企画するなど学校等との連携をより深めるため、教育普及事業の強化に着手した。

評価項目

(4) 美術館の基本的かつ重要な機能である保存及び収集について、収蔵作品の適切な保管に努め、信頼される美術館としての評価を高める。特に、南海大地震やその他の風水害から美術作品を守る観点から、管理運営面での対策を行う。また、寄贈を中心として資料収集に努める。

状況説明

1 作品の収集

・絵金、中山高陽、島内松琴、西悟、井上青龍等の作品計35点を収集した。うち井上青龍の作品6点は、館の自助努力により費用を捻出し購入した。

2 作品の保管、管理

・石元泰博氏の写真作品を適切に保管、活用するため、石元泰博フォトセンターを設立し、「深める」(調査・研究、管理保存等)、「広める」(展示公開、著作権管理等)、「つなぐ」(教育普及)という観点から、アーカイブ活動を開始した。

・学芸員の全国美術館会議における保存・修復ワーキンググループメンバーとしての活動や、九州国立博物館におけるミュージアムIPMのプロジェクトへの参加など、保存科学に関する資質向上に努めた。

3 地震対策

・収蔵している作品について、さらしを使用して固定するなどの対策を講じた。

評価

理由

A

・作品の収集については、寄贈を中心に継続的な収集活動を行っている。特に本年度は、館の自助努力により井上青龍作品を購入するなど、積極的に事業を展開した。

・作品の保管、管理については、石元泰博フォトセンターを設立し、作品を適正に保管・活用できる体制を確立した。また、学芸員等の保存科学に関する資質向上に努めた。

「県民の芸術文化の活動を支援する」	
<p>アートの拠点として県民の創造的な芸術文化活動を支援し、育てる役割を担う。 この場合、美術館に来ることが容易な県中央部だけでなく、県内全域でアートに触れ楽しむことができる視点に留意する。</p>	
<p>評価項目 (1)他の美術館をはじめ市町村、NPO等関係団体の活動に協力するなど、県内各地域でのアートの取り組みに支援を行う。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・作品の貸出、企画展の支援、合同展の実施教育普及事業の相互協力などを行う。 ・県内の芸術家、演奏家を支援する取り組みを行う。 ・カルチャーサポーターが主体的に事業に参画できる仕組みづくり 	
状 況 説 明	
<p>1 事業の相互協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館蔵作品の貸出を行った。 岡上淑子作品：損保ジャパン東郷青児美術館、徳島県立近代美術館／ キース・ヘリング作品：山梨県中村キース・ヘリング美術館／中村一美作品：東京国立新美術館 ／星加敏文映画ポスターコレクション：横倉山自然の森博物館／ 日高養護学校高等部生徒の陶芸作品：藁工ミュージアム／宮地俊一郎作品：香美市立美術館 ・県内文化施設の香美市立美術館や藁工ミュージアムには、作品貸出のほか、作家の資料や情報の提供、関連事業の共同開催、ギャラリートークへの学芸員派遣など、事業運営へ相互協力を行った。 <p>2 県内の芸術家への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術活動の発表の場として県民ギャラリーの貸出を行った。(平成25年度はのべ24団体、289日利用で、稼働率は84.5%) ・県内の若手芸術家が多数参加した、須崎市のすさきまちかどギャラリー主催の「アーティスト・イン・レジデンス事業」の広報や出前クラシック教室では県内で活動する「アンサンブル・パレット」を起用しアーティストによるアウトリーチ活動の育成に協力した。 <p>3 カルチャーサポーターとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞スクラップ整理、ライブラリー、ワークショップ補助、館内ギャラリートーク、印刷物発送作業など、美術館の事業に幅広く関与していただいた。また、開館記念日に実施した各記念行事においても、来館者対応など主体的に取り組んでいただいた。 <p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演劇祭KOCHI(演劇ネットワーク演会主催)、四万十川国際音楽祭(中村音楽振興会主催)を共催することにより、資金面の援助と広報面での支援を行い、県内の創造的な芸術文化活動の発展に貢献した。 ・要請に応じ、学芸課職員が高知県展、女流展、スピリットアート展等の審査員として協力した。 	
評 価	理 由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・他の美術館等への作品貸出や学芸員の派遣など、関係団体の活動への協力を行った。また、県内の若手芸術家への支援など、県民の創造的な芸術文化活動を支援し、育てる活動を行った。 ・カルチャーサポーターとの連携により、効率的な事業運営が図られている。

効率的な運営、サービスの向上、施設・設備の管理

評価項目

(1) 適正な管理運営の確保

社会的責任	・法令等の遵守 ・個人情報、情報公開の状況
建物や設備の管理	・点検、修繕の実績 ・業務委託の状況
危機管理	・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策 ・マニュアルの作成 ・職員研修

状況説明

- ・適切な施設の管理運営に努めた。
- ・個人情報については、高知県文化財団個人情報保護規定に基づき適正に管理を行った。
- ・施設・設備の現状を踏まえ、改修年次計画を精査し、経年劣化した設備の更新や危険個所の修繕を行った。(修繕等件数42件 約7,400千円)
- ・施設の管理運営のため、外部の専門業者に業務委託を行った。(24件 約68,000千円)
- ・年度初めに「災害対策要領」、「災害対策総合マニュアル」、「消防計画」を更新し、災害時の職員それぞれの役割分担を再確認した。
- ・館内に常駐しているレストラン、ミュージアムショップ、管理業務委託会社従業員も参加させた消防訓練等を実施した。
- ・美術館事務室等施設来訪者マニュアルに沿い、職員通用口等での出入りを記録し、不審者の侵入を防止した。

評価	理由
----	----

B	上記により、適正な管理運営が遂行されたと認められる。 水害に遭いやすい立地にあり、今後も危機意識を持って管理運営に努めてもらいたい。
---	---

評価項目

(2) 利用者サービスの維持向上

サービス向上への取り組み	・自己点検、評価の状況 ・事故、クレームへの対応 ・職員の専門性の向上 ・研修の実施状況 ・その他サービス向上の取り組み
--------------	---

状況説明

- ・日々の取り組みに対する点検評価は、まず各職員が行い、随時または翌日の朝礼で情報を共有するなど、体制を構築している。
- ・展覧会、ホール事業でのアンケート調査を基に、館会議等において問題点の確認、改善策の検討を行い、その後の取り組みにフィードバックを行った。
- ・クレーム・要望、事故等については、館内で共有し、速やかに対応を協議した。
- ・機会を捉えて積極的に職員を研修に参加させ、資質の向上に努めた。
東京都写真美術館へ派遣(新採職員研修3カ月、石元泰博フォトセンター担当学芸員1名)
ドイツの最新ダンスシーンの視察、情報収集等(ホール担当者1名)
国立国会図書館、文化情報資源政策研究会(学芸員1名 通算5回)
全国美術館会議研究部会等3名、高知県観光コンベンション協会(接遇)研修1名
高知県図書館協会研修1名、高知県障害者サポート研修1名、財団会計研修7名 など

評価	理由
----	----

B	上記により、利用者サービスの維持向上に努めたと認められる。
---	-------------------------------

評価項目 (3) 利用実績	
利用実績の状況	・利用状況の分析
状 況 説 明	
1 利用実績の状況 ・展覧会観覧者数 105,982人（常設展 8,527人 企画展等 97,455人） ・美術館事業の総利用者数 252,929人 ※ミレー展は、会期全体の観覧者数で積算。 ・開館20周年に合わせ「草間彌生展」や「ミレー展」などの大型の展覧会を開催し、観覧者数は開館以来4回目、かつ2年連続となる10万人超となった。	
評 価	理 由
A	・「草間彌生展」や「ミレー展」など大型展覧会を開催したことで、展覧会の観覧者数が2年連続で10万人を超え、非常に高い水準となった。

評価項目 (4) 収支の状況	
経営努力	・収入増加の取り組み ・経費削減の取り組み
状 況 説 明	
1 収入増加の取り組み ・文化庁の補助金など外部資金の導入を進め、実施事業の内容の充実を図った。また、各展覧会やホール事業のセールスポイントを検討・共有し、事業ごとにターゲットを絞るなど、収入増加への取り組みに努めた結果、観覧料、入場料、使用料、外部資金の合計は、予算84,839千円に対し、実績86,185千円となった。 2 経費削減の取り組み ・入札制度、相見積もり等を活用するとともに、事務スペースでの省エネの徹底、駐車場での誘導や展示室での監視業務を職員間ローテーションで対応するなど、経費削減に努めた。	
評 価	理 由
A	上記により、収入増加や経費削減の取り組みに努力が認められる。

総 合 評 価	
評 価	理 由
A	開館20周年という節目にふさわしい大型展の開催や、資料収集、教育普及に努め、アートの拠点として県民の創造的な芸術文化活動を支援した。 ホール事業においては、展示会場を舞台とした新たな試みや、館全体を舞台装置に見立てた体験型の公演など、美術館に併設されているという特色を最大限に生かした多彩な取り組みがなされた。また、地域住民と共同した国際共同製作事業等により、高知県立美術館の名を国内外に大きく発信できた。 以上のことから、要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされたと認められる。

評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえ、大いに改善を要する。